

損保ジャパングループのCSR課題 実績と今後の目標

CSR テーマ	2010年度の 目標	2010年度の 実績	活動の 自己評価	2011年度の 目標	対応 ページ	
保険事業および金融関連事業における「適応と緩和」	2009年度に前年度比12.1%削減した紙使用量をさらに前年度比6.9%削減。 印刷物ネットワークの利用率を55%以上に	●紙使用量は年初に予定していなかった商品改定の影響などにより、主にパンフレット・ちらしの紙使用量が増加し、2009年度と同水準 ●2010年度末の印刷物ネットワークの利用率は43.7%	△	お客さまに対するWeb約款の推進や社内でのWeb会議の活用推進、拠点への紙や印刷物の経費データ提供による抑制効果を通じて2010年度比9.5%削減を目標とする	p17	
	2002年度比で2020年に40.5%、2050年に56.0%のCO ₂ 中長期削減目標達成に向け、設備改修や省エネ活動で着実に削減	●本社ビル、事務本部ビルでは2009年度比2.1%増加、2002年度比14.7%削減 ●全社では2009年度比2.1%増加、2002年度比36.2%削減	△	継続的に設備改修や省エネ活用を行い、年平均1%削減を目標とする	p18	
	タイ・コーンケン県での『天候インデックス保険』の販売推進、商品改良	2011年2月から、『天候インデックス保険』の販売地域を2009年度のコーンケン県1県から、タイ東北部の5県(コーンケン県を含む)へと拡大	◎	●2011年度の販売を通じ、タイ東北部5県でのさらなる普及 ●販売状況をふまえて、商品内容の改定、タイ国内の他県へのさらなる展開、対象作物の多様化、東南アジア地域の他国での展開などを検討	p20	
	その他適応策について検討	2010年10月から、京都大学防災研究所と気候変動影響を考慮した洪水リスク評価の共同研究を新たに開始(研究期間は2013年までを予定)。三大都市圏の洪水モデル開発に着手	◎	京都大学と共同で三大都市圏洪水モデルを完成させるとともに、新たに確率降雨モデルの開発に着手し、洪水モデルとの統合を目指す	p20	
安全・安心へのリスクマネジメント	環境リスクマネジメントやBCMなど新たな企業経営のリスクマネジメントのコンサルティングに関する対応力を強化	●環境NPOと「生物多様性コンサルティング」を共同開発 ●ISO50001認証取得支援コンサルティングなどの省エネルギー対策支援を提供開始(NKSJリスクマネジメント(株))	◎	企業の経営を支援するため、食品安全、CSR、環境、発電設備のインスペクション事業分野(発電設備審査など)を拡大し、お客さまに新しいソリューションを提供	p19	
	社会の不安やニーズに対応した安全・安心につながる新たな商品改定・サービスを開発	●がん保険に入院を伴わない通院保障を追加。骨髄ドナーに対する手術給付金の支給、「先進医療ネット」サービスを開始(損保ジャパンひまわり生命保険(株)) ●訪日中国人旅行者向け海外旅行保険「漫遊櫻花」を発売、中国語での医療機関の紹介や窓口での支払いが不要となるキャッシュレスサービスなどを国内で提供(損保ジャパン中国)	◎	引き続き安全・安心など社会のニーズに対応した商品を提供していく	p23 - 24	
	メンタルヘルス対策のサービスラインナップ拡充などによる、お客さま満足度の一層の向上、メンタルヘルス専門職全国ネットワークの拡充	従業員の心身の健康状態が業務の生産性に与える影響度を定量的に測定できる、日本初のプログラム「mimosa WLG-J」を開発。また、カウンセラーネットワーク、医療機関ネットワークを全国に設置(株)損保ジャパン・ヘルスケアサービス	◎	ヘルシーカンパニーの実現に向けた効果的なソリューションの提案・普及に努める	p25 - 26	
社会的課題の解決	SRIファンドの普及・拡大のため、新規販売会社の拡大。年金、機関投資家、DC運用商品への採用に向けた取り組みを継続	●販売会社やDC運用商品への採用が増加 ●2011年3月の残高(158億円)は国内のSRIファンドのなかで最大に	◎	引き続き社会の持続可能な発展に貢献すると考えられる『ぶなの森』などのSRIファンドの普及に努める	p29	
	投融資実行時に投融資先の環境配慮などの実施状況を確認する態勢の定着化	●投融資先企業の環境配慮などへの取り組み状況の確認 ●信販会社との提携による太陽光発電システム購入資金融資の推進	◎	引き続き環境関連の投融資を推進	p29	
	CSR関連商品の開発を検討	学業継続支援サービスの提供開始	◎	社会的課題の解決に寄与する商品・サービスの開発を継続	p30	
社員を巻き込んだ社会貢献活動の推進	地域における協働の促進	社員ひとりひとりがさらにレベルアップしたCSRの取り組みを推進するためのツールとして「E-ことCSRポイント制度」を進化させる	損保ジャパングループの役職員(スタッフ含む)19,371名が各自のCSRへの取り組み状況をウェブでチェックし、寄与度の換算額164万円を環境、福祉分野のNPOに寄付	◎	寄付先団体との継続的な関係構築を検討	p33
		「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」の参加人数拡大に向けた情報発信を強化	●年1回(春)の加入募集を、年2回(春・秋)に変更。「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」への参加者は2009年度から約1,100名増え7,453名 ●ファンドの収入総額は約2,400万円(前期繰越金を含む)	◎	「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」のさらなる活用に向けた改革を検討	p33 - 34

ステークホルダー・エンゲージメントを通じて絞り込んだ「4つの重点課題」を中心としたCSR課題の進捗状況を紹介します。

CSRテーマ	2010年度の目標	2010年度の実績	活動の自己評価	2011年度の目標	対応ページ
社員を巻き込んだ社会貢献活動の推進 地域における協働の促進	社会貢献活動に熱心な社員を巻き込み、地域での活動報告会開催など社員と支援先団体をつなぐ取り組みを検討	支援先団体やボランティアセンターなどにヒアリングし、協働で取り組める課題を整理	△	社員の技量を活かして支援先団体と協働で取り組めるプロボノ活動の構築	p33 - 34
	海外における社会福祉の向上に貢献すべく、海外の団体を対象とした社会福祉助成を開始(損保ジャパン記念財団)	ASEAN加盟国で初めて海外助成を募集し、ジャカルタとマニラの2つの非営利活動団体に対して障がい児・者のためのプログラムに必要な資金を支援	◎	●引き続きASEAN加盟国の社会福祉分野で活動する非営利団体などへの助成を実施 ●東日本大震災への対応として地域災害等緊急対策助成を活用した支援を実施	p35 - 36
	対話による美術鑑賞教育事業の新宿区以外への拡大を検討(損保ジャパン美術財団)	損保ジャパン東郷青児美術館で「対話による美術鑑賞教育事業」を東京都新宿区以外でも展開すべく、神奈川県大和市で施行実施	◎	対話による美術鑑賞教育事業を新宿区以外の学校、自治体、企業など多方面の社会的ニーズに応えられるように工夫	p35 - 36
	「市民のための環境公開講座」は、市民生活と環境問題の全体像、日本の文化と生物多様性の調和、国際交渉の真実を迫る、NPO・NGOが動かす世界の4テーマ、全12講座を開催(損保ジャパン環境財団、損保ジャパン)	2010年度計画に基づき、市民講座全12回の講座と野外講座を開催し、延べ1,394名が参加	○	森と水～生命(いのち)の源～、大地・海・宇宙～自然の驚異～、「環境」の20年～リオ+20の節目を前に～の3つのテーマで計9回、特別講座4回を開催予定	p35 - 36
	CSOラーニング制度10周年記念誌の発行、および10周年記念シンポジウムを開催(損保ジャパン環境財団)	「CSOラーニング制度10周年記念誌」の発行とあわせて2010年9月、「CSOラーニング制度10周年記念シンポジウム」を開催し、CSOラーニング制度関係者、OB・OGによるディスカッションを実施	◎	2011年度もCSOラーニング制度を継続し、引き続き環境分野の人材育成に努める	p35 - 36
「働きがいと働きやすさのある職場・企業を追求」 従業員とのかわり	多様な従業員が活躍できる風土づくり	職員区分や性別、国籍、年齢による役割や職務に関する制約や制限がなく、自由に力を発揮できるよう、コース別人事制度を見直し、「総合職員」「業務職員」の職員区分を統合し一本化。女性管理職についても、これまで以上に登用を推進	◎	人事部「女性いきいき推進グループ」から人材開発室「ダイバーシティ推進グループ」に組織を変更。「女性活躍支援」「障がい者活躍支援」「外国人活躍支援」「ワーク・ライフ・バランス推進」を重点に置き、多様な人材が活躍できる仕組みを強化	
	安定的な障がい者雇用と活躍できる職場の環境づくり	●障がい者を新規で43名採用し障がい者雇用率は法定を上回る2.1%を達成。バリアフリー化も推進。障がい者の所属する部署の管理職に対して人事部がヒアリングを実施 ●知的障がい者3名を新卒採用するとともにバリアフリー化(株)損保ジャパン・ビルマネジメント	◎	障がい者活躍推進に向けた分析と全国への情報発信	p39 - 40
	グローバル人材の育成	M&A戦略を通じた海外保険事業の拡大に伴い、各種グローバル人材育成メニュー拡充、TOEIC受験促進	○	損保ジャパングループの海外現地法人ナショナルスタッフの受け入れを開始、外国人留学生の採用を強化	
ステークホルダー・エンゲージメント CSRマネジメント	CSR情報開示の拡大・充実	●中国の日系金融機関で初めてのCSR報告書を発行(損保ジャパン中国) ●「CSRコミュニケーションサイト」に「CSR担当者が語る」コーナーを新設、よりタイムリーに情報を発信する仕組みを構築	◎	●オフィシャルホームページを改定し、より網羅的な情報開示を行うとともに、英語のサイトも充実させ、海外へのCSR情報発信を一層強化	p11 - 14
	CSR社内浸透に向けた社内コミュニケーションの充実	●本社全部門でのCSR・環境目標の策定、29部門への「対話型」内部監査の実施、2回のCSRディベロップメント研修を開催 ●全国の拠点では、CSR・人間尊重推進研修、生物多様性フォーラムの開催や、イントラネットや社内衛星放送を活用した各地のCSR実践事例を共有 ●4つの地区本部のCSR・環境事務局をCSR・環境推進室が訪問し、地域における課題や今後のビジョンについて意見交換を実施 ●国内外のグループ会社へのヒアリングやESG課題に関するアンケートを行い、各社のCSRの取り組み実態を把握し、アドバイスを実施	○	●2011年度から既存のCSR・環境マネジメントシステムにISO26000の項目を含め、全部門が業務特性に応じた取り組みを実施できるよう努める ●2010年度実施した海外拠点、グループ会社向けのアンケート結果をもとに、各社へ働きかける	p11 - 14
	対外活動への積極的参加による情報収集、ネットワーク強化	参画しているイニシアティブにおいて、原則やガイドラインの策定に参画、事例を提供	○	国内外のイニシアティブへの参画などを通じて積極的に情報収集、発信を強化	p43

活動の自己評価: ◎目標の実現に向けて大きな成果が得られたもの ○目標の実現に向けて成果の得られたもの △実施してさらに成果を上げる必要のあるもの ×実施できなかったもの